

「青少年の主張宮崎県大会」受賞者

種別	賞	氏名	性別	学校名	学年	発表テーマ
少年	最優秀賞	野上 日菜	女	県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校	3	自分の土台
	優秀賞	渡辺 蘭	女	国富町立本庄中学校	3	人生で見つけた一番星
		海老原花音	女	日南市立南郷中学校	2	知覚特別攻撃隊
		藤田 陽菜	女	宮崎市立宮崎西中学校	1	東日本大震災を体験して
	優良賞	日高 沙妃	女	宮崎市立大淀中学校	2	私達の平和な未来
		古川 そら	女	宮崎市立生目台中学校	3	あなたは武器をもっていますか？
		山岡 美波	女	宮崎市立広瀬中学校	3	日本を担う社会人になるために
		河野 美晴	女	日南市立東郷中学校	3	私の宮崎自慢
		戸田 瑛翔	男	日之影町立日之影中学校	1	伝統芸能深角団七踊り
		田中 愛美	女	県立明星視覚支援学校	3	見えにくいことなんて
青年	最優秀賞	内山 智浩	男	鶴翔高等学校	3	志を全うする
	優秀賞	比江島瑞生	女	県立宮崎北高等学校	3	おとうと
		兒玉 詩乃	女	県立明星視覚支援学校	3	「豊かである」ということ

「家庭の日」「少年の日」ポスターコンクール入賞者

賞	氏名	学校	学年	賞	氏名	学校名	学年		
最優秀賞	日高 みお	宮崎市立櫛小学校	4	家庭の日	有馬ちひろ	国富町立本庄中学校	1		
	森 弘乃介	都城市立南小学校	6		優良賞	橋爪 詩織	宮崎市立東大宮中学校	2	
	野田木乃美	都城市立五十市中学校	3			菊地明日香	宮崎市立東大宮中学校	2	
重松 里奈	県立佐土原高等学校	1	兒玉妃乃華			県立宮崎工業高等学校	1		
優良賞	富田 夏奈	宮崎市立加納小学校	1		少年の日	中村 優花	県立佐土原高等学校	1	
	椎葉 萌	椎葉村立不土野小学校	1			最優秀賞	日高 志哉	宮崎市立広瀬北小学校	5
	山下 真弘	串間市立都井小学校	2			優秀賞	坂ノ上大吾	串間市立都井小学校	1
	本田 光	宮崎市立小松台小学校	2				鎌田ほのか	延岡市立恒富中学校	2
	那須 叶和	椎葉村立不土野小学校	2				新名 沙耶	県立佐土原高等学校	2
	優良賞	坂元 帆志	宮崎市立西池小学校			3	優良賞	早瀬 光希	串間市立都井小学校
		根井 成美	宮崎市立広瀬北小学校	4		岩切 壮太		宮崎市立住吉小学校	6
		神田 藍乃	宮崎市立西池小学校	5		押川賢支郎		国富町立本庄中学校	1
		中西 令	宮崎市立恒久小学校	5		安藤 温香		宮崎市立東大宮中学校	2
		児玉 春乃	都城市立川東小学校	5		上ノ原利久		都城市立五十市中学校	2
采原 壮良		宮崎市立江平小学校	6	中村 莉子	県立佐土原高等学校	1			

「家庭の日」「少年の日」ポスターコンクール優秀賞受賞作品



都城市立南小学校6年 森 弘乃介さん



都城市立五十市中学校3年 野田 木乃美さん



県立佐土原高等学校1年 重松 里奈さん



串間市立都井小学校1年 坂ノ上 大吾さん



延岡市立恒富中学校2年 鎌田 ほのかさん



県立佐土原高等学校2年 新名 沙耶さん

毎月第3日曜日は「家庭の日」



毎月第3日曜日は「家庭の日」

毎月第1土曜日は「少年の日」



毎月第1土曜日は「少年の日」

「家庭の日」「少年の日」ポスター展示

子どもとの共遊・共食・共話・共汗・共働を啓発する「家庭の日」、地域における青少年育成活動のための行動を促す「少年の日」ポスターの入賞作品の展示を実施しました。  
 今年は、例年どおり県庁本館での展示を実施するとともに新たな展示会場として、「宮崎銀行」の御協力により、宮崎銀行本店及び宮崎支店のフロアをお借りして、11月16日（月）から30日（月）の2週間作品展示を行いました。  
 入賞作品については、宮崎県青少年育成県民会議のホームページにも掲載していますので、御覧ください。



県庁本館1階



宮崎銀行本店



宮崎銀行宮崎支店

編集後記

インターネット被害防止研修会



直近の内閣府の全国的な調査によると「青少年育成」に携わるボランティアの活動状況では「インターネット啓発」は今後充実が必要であるとの回答が多く寄せられているようです。  
 本年度、青少年育成県民会議では、県PTA連合会、県高等学校PTA連合会、私立中等学校保護者会と連携して、写真のとおりインターネット被害防止のための研修会を実施いたしました。インターネット啓発に係る研修については、関係機関及びインターネット関連企業が講師派遣をしていますので、県内各地の各種団体単位で積極的な取組をされては如何でしょう。  
 青少年を取り巻く社会環境の変化は加速度的です。変化に対応した素早い取組が青少年育成の喫緊の課題です。

伸びよう 伸ばそう ひむかの青少年

はぐくむ

60号  
平成27年12月発行



『家庭の日』ポスター最優秀賞作品  
 宮崎市立櫛小学校  
 4年 日高 みおさん  
 テーマ～『家族の笑顔』



『少年の日』ポスター最優秀賞作品  
 宮崎市立広瀬北小学校  
 5年 日高 志哉さん  
 テーマ～『地いきのみなさん ありがとう』

家族も笑顔、地域も笑顔、みんなの笑顔が子どものころを育みます。“にっこり笑顔”で地域の子どもたちを育てましょう。大人の笑顔を子どもたちに見せましょう。  
 今年のポスターコンクールは、「家庭の日」1,055点、「少年の日」361点の応募がありました。

青少年の主張宮崎県大会



青少年の主張大会の少年の部は、少年の主張全国大会の予選会を兼ねており、全都道府県で実施しています。都道府県大会の代表となつて、全国大会で発表者に選出された場合は、翌年の7月にミクロネシアへの海外旅行に派遣されます。また、県大会の最優秀賞受賞者と優秀賞受賞者は、東京都で実施される全国大会へ派遣するという副賞を付けています。多くの中学生の応募を期待しています。

毎年実施している「青少年の主張宮崎県大会」を今年は8月19日（水）に実施しました。作文応募数は少年の部（中学生）1,907点、青年の部（高校生）22点で、作文審査の結果、写真の13名の皆さんが発表しました。辛く、悲しい体験を乗り越えて将来を展望している発表、志を立て、実現に向けて生活設計を描いている発表など、感動的な発表が聞かれました。

「はぐくむ」は宮崎県青少年育成県民会議の広報紙です。

〒880-8501 宮崎市橘通東2丁目10番1号 県庁福祉保健部 こども家庭課内  
 電話0985-26-7041 F A X 0985-26-3416  
 Eメール:miyazaki-sik@ab.auone-net.jp

## 「青少年の主張宮崎県大会」最優秀賞作文

今年の青少年の主張大会の少年の部（中学生）及び青年の部（高校生）の最優秀賞受賞作文を御紹介します。それぞれの人生があり、それぞれが体験したことを作文しています。

最近の子どもたちは“コミュニケーション力”に欠けていると言われますが、「書くこと」をとおして、自己を表現する機会を得ることは、お互いの考えていることや心情を理解しあえることにつながります。野上さんの作文、内山さんの作文をお読みください。心動かされる作文です。

### 【少年の部】

#### 自分の土台



都城泉ヶ丘高等学校附属中学校 3年 野上 日菜

私は毎朝、自分の分と兄の分のお弁当を作ります。作るようになって2年、毎日必ず入っているおかずは卵焼きです。母が亡くなる前に教えてくれた料理のうちのひとつです。

私が小学4年生の時、母が乳がんになりました。お医者様からは命にかかわる病ではないと言われましたが、薬の副作用で髪が抜けていく母を見るのはとても辛いことでした。母が家にいない間、父のワイシャツのアイロンがけ、洗濯物の整理など幼いなりに一生懸命やりました。

何度か入院を繰り返しましたが、無事に手術を終え、再び元気な明るい母に戻り、ほっとしたのを覚えています。しかし、私が中学1年生の夏、再びがんが見つかりました。肺に転移していたそうです。

そこからまた何度も入院を繰り返しましたが、母の前では私も兄も不安を隠して明るく振るまっていました。そして、去年の2月に母は天国へと旅立ちました。亡くなる2日前、母は私と兄に話してくれました。

「迷った時も悩んだ時も自分の胸に手を当てて、正しいと思う方向に進んでいきなさい。お母さんが見守っているから。」

すぐには受け入れることの出来なかった母の死でしたが、ちゃんと母はいる、と自分に言い聞かせて辛い時やさみしい時を乗り越えてきました。

以前、テレビで若くして病にかかり、余命2年の宣告を受けた20歳の女性の特集がありました。その人は「病気がなったのは辛いこと。だけど、病気がなった事で、自分の命も他人の命も大切にしようと思えるようになり、他の20歳の子にはない土台が自分には出来た。」と、明るく話していました。その姿は、とても余命宣告を受けたようには見えませんでした。

私はその人を見て、「確かに母がいないことは決してプラスではない。だけど、他の子どもにはない土台が自分の中にできているんじゃないか」と思えるようになりました。

おいしい卵焼きが作れること、上手にシャツのアイロンがけが出来ること、どれも、母の病気がなかったらなし得ないものでした。病気の人の苦しみや、その家族の寂しさなど多少とも解れるようになったことは、これからの私の大事な土台になると思います。

人間関係が上手くいかない、就職先が見つからない、そういったことで自ら命を絶ってしまう人がいます。

他の人には解ってもらえない辛さは、他の人には築くことのできない土台になるのです。

「今はどんなに辛くても、その経験が自分の中で一番大きな支えになる」そう信じて私は毎日過ごしています。

お弁当を作るのを面倒臭いと思うときもあります。手を抜いてしまうときもあります。だけど卵焼きだけをかかさず作るの、それが自分の中に残っている母の味だからです。

自分の中に支えとなるしっかりとした土台ができていれば、迷った時も悩んだ時も自分の正しいと思う方向へ、逃げずに進むことができると思います。

辛い病氣と闘った母も、残された私たち家族も、若くして余命宣告を受けた女性も、決して後ろ向きにならず、明るい方へと顔を向ける努力をしました。「不幸な出来事がすべてマイナスに働くわけではない」と信じて。

私には母はいないけれど、母が残してくれた多くのことを土台にし、さらに多くのことを積み上げて、母に誇れる人になりたいと思います。

### 【青年の部】

#### 志を全うする



鵬翔高等学校 3年 内山 智浩

「お母さんのこと、わかるんですよ。」

看護師さんはそう言いながら、母が横たわるベッドの脇に生まれたばかりの妹を寝かせた。すると、それまで大声で泣いていた妹はホッとしたかのように、急に泣きやんだ。私は生まれてすぐ、自分の母親を感じ取ることのできる赤ちゃんの力に驚かされた。遠方から駆けつけてきた祖母は、妹の様子を微笑みながらも目にはうっすらと涙を浮かべ見つめていた。祖母はおそらく自分の辛い経験からくる思いの強さから、妹の誕生を涙なしに喜ばずにはいられなかったのだろう。それは、今から約50年前、私の二人の祖母が初めて出産をした頃に遡る。

父方の祖母は、助産師に来てもらい山間の自宅での出産を、母方の祖母は病院での出産を選択した。しかし、その出産は、一人は首にへその緒を巻きつけ、もう一人はお腹の中で完全に呼吸がとまった状態であったことから、二人ともすぐ、産声をあげることはなかった。一人は助産師が医師を呼んで、何とか一命を取り留めることはできたが、小さな産声を一瞬あげただけで泣き続けることはなかった。もう一人は医師がすばやく蘇生措置を施した結果、瞬間に病院中に大きな産声を響き渡らせた。

その後、小さな産声の赤ちゃん、つまり、私の伯父は重度の心身障がい者となり、現在は医療を備えた施設で過ごしている。伯父は私たち家族の顔を見てにこっと微笑んでくれるが、その口から言葉を発することはできない。ベッドに横たわった体は大きく左側に曲がっている。食べ物も、すべてがペースト状のものを食べさせられる。そんな伯父の唯一の楽しみは、自分の両親である祖父母へ会うことである。そのため、祖父母は80歳を過ぎた今もなお、自分たちの暮らす山間の村から町場にある施設へ通い続ける。そして、もう一人の大きな産声をあげた赤ちゃんは、私の母で現在は特別支援学校の教師として、日々、障がいをもつ生徒の指導にあたっている。

伯父と母の対照的な人生には、医療をいち早く受けることができたかという時間との闘いがあり、その結果が大きく人生を左右するものであったことは否めない。そして、残念なことに50年以上経った今日も、地方の医師不足という問題は解消されていない。それは、祖母が膝を悪くしたことから、祖父が治療のために、細い山道を自分で運転し、町場の病院まで連れて行くといった、祖父母自身の問題が生じているからだ。このことから、常時身近に医療を受けることのできる環境にいる伯父よりも、医療を受けるために多くの時間と手間を要する祖父母のことを私は心配するようになった。

私が生まれる前から地方で生活することが安心安全ではないことを知った今、私はこの宮崎で将来、救命救急医になりたいと考えている。それは地方で暮らす人々が適切に迅速な医療を受けることができなかったことで、その大切な命が失われたり、重い障がいが残ることのないようにしたいからだ。「もう少し、早く診ることができたなら。」祖父母は医師にそう告げられたときから、赤ちゃんであった伯父を連れて、障がいが残らないようにと願い、何度も遠くの大学病院へ通ったそうだ。伯父も健常者であれば、私の父のように家族をもうけ、父親となり、祖父母にも自ら会いに行くことができる人並みの人生を過ごすことができたに違いない。年老いた今もなお、伯父のことを悔いてやまない祖父母の思いや、人生の大半をベッドで過ごすこととなった伯父の思いに、私は二度とこのような家族が作り出されることがないようにしたい。そして、私の妹が母親になる頃には、地域医療の整備が進み、地方でも安心して暮らせるような社会が実現しているように、私も医師となり、その志を全うしていきたい。

## 少年の主張全国大会に参加しました。全国大会出場者の発表に感動しました。



大会会場にて（東京都 国立オリンピック記念青少年総合センター）

平成二十七年から、青少年の主張宮崎県大会少年の部最優秀賞受賞者に加えて、優秀賞受賞者二名の方々に、東京都で実施される少年の主張全国大会に参加していただくことにいたしました。全国大会十二名の意見発表を聞いて、それぞれ心動かされたことと思います。青少年育成県民会議は、会員の皆様の御支援により、可能な限り、青少年の主張大会の発表者に、全国大会参加の機会を与えたいと思っております。感性豊かな中学生が同世代の発表を聞くことにより、多くの学びの機会が与えられ、人材育成につながるものと考えています。

### 少年の主張全国大会に参加して（感想）

都城泉ヶ丘高等学校附属中学校 3年 野上 日菜

今回、少年の主張全国大会の発表を聞いて、同年代の子たちの様々な思いや意見を知ることができ、とても勉強になりました。

障がいや病氣と闘っている子や自分と同じ境遇の子の前向きな意見に励まされると同時に、自分がこれから生活していく上での大切なことに気づく事が出来ました。

「今ある日常があたり前ではない。1日1日が奇跡。」という主張にはとても共感し、涙が出そうになりました。同じ中学生の子が辛い病氣に対して嘆くのではなく、気づけた事がある、と明るく話している姿に感動し、強いな、と感じました。

同年代の子たちのこうしたすばらしい思いを聞けたことはとてもいい経験になりました。

今回学んだ事や気づいた事を、これからの自分の糧にしていきたいです。

国富町立本庄中学校 3年 渡辺 蘭

「いつか誰かの道しるべとなれるように。」卵巣摘出をきっかけに、医者という夢を見つけた大阪府の代表の彼女が放ったこの一言に、私は大きく心を動かされました。12名の大会発表のうちの大半が病氣やいじめ、家族を失うなどの経験をした内容でした。しかし、全員がそれらの困難を自分のプラスに変えていて、思い思いを力強く私たちに語りかけるのでした。きっと辛い経験をしたからこそ気づけたこと、芽生える想いがあるのだと思いました。内容は全て違いましたが、共通点が一つ。それは皆が自分の未来をまっすぐ見つめていたことです。全ての発表が、これからの私の人生を切り拓いてくれたかのようにとても輝いていました。また、戦争や現代の日本のことをテーマにした発表を聞いて、今後の日本や世界を背負う立場である私たちは、いろんなことに目を向け、考え、伝えていく義務があると感じました。今回の経験をこれからの人生に繋げていきます。

日南市立南郷中学校 2年 海老原 花音

少年の主張全国大会の発表当日、あいにくの雨でしたが発表者の主張を聞くと思うと、私の胸は期待と興奮でドキドキしていました。

実際聞いてみると、どの発表者も感情豊かでとてもすばらしく、時には共感したり感心したりと、私の感情も忙しくなり、宮崎大会で自分の思いを伝える中で、段々と熱い気持ちがかみ上げてきたのを思いだしていました。

伝えたいことは人それぞれ違いますが、みんな前向きに今を生きている。そう実感しました。誰かに自分の思いを伝えることの大切さを知ると同時に、自分の思いを伝えることができる言葉というもののすばらしさに、改めて感動した1日でした。

このすばらしい経験を今後の学校生活に生かし、来年もう一度挑戦できればと思います。